

L^AT_EX の使い方

うたおじ

uplatex を使って実験レボを書けるように、必要最低限くらいの知識をまとめようと思います。platex や luatex を使いたいひとは、自分で調べてください。

私の環境ではすでに色々入れてるのでアイコンがちょっと多いですが、次の図 1 のようにすればインストールできます。LaTeX Workshop についても同様に、latex と検索してインストールしてください。

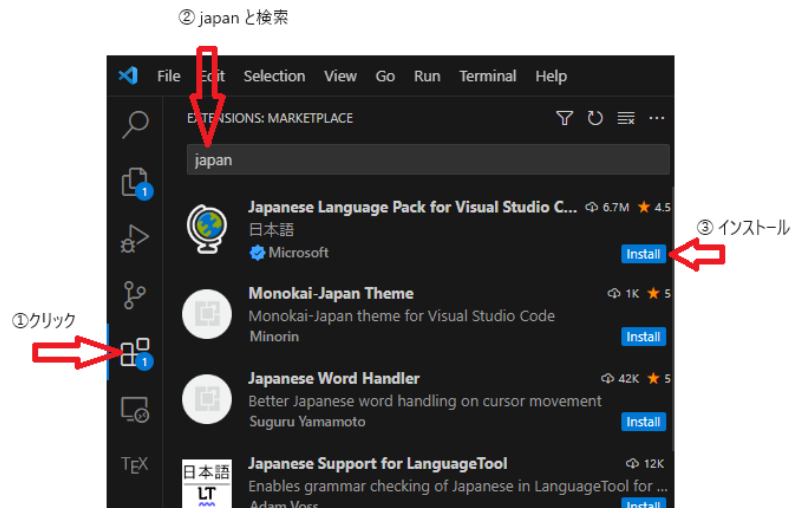


図 1: 拡張機能追加

0.0.1 settings.json の編集

VSCode の左下の歯車マークをクリックし、『設定』を開き、右上にある三点マークの 2 つ左にあるマークをクリックすると、settings.json がひらけます。できたら、github 上においてある setting.json というファイルの中身をそのままコピペしてください。

latexmk の設定

L^AT_EX のソースを pdf 化する際、コマンドをいくつか入力しなければなりません。が、面倒ですよ。というわけで自動化しましょう。

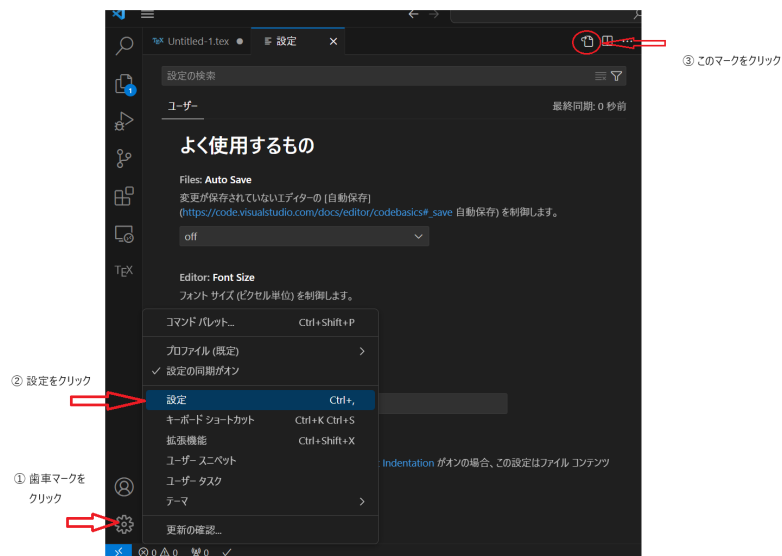


図 2: Settings.json の表示

1 基本構造

2 文章の書き方

ここでも簡易的には説明するものの、詳しくは自分で調べたり試行錯誤したりすることをおすすめします。ついでに参考になるサイト（参考にしたサイト）をまとめときます

- Yamamoto's Laboratory
- 物理のかぎしっぽ
- TeX Wiki
- その他、Quiita などのブログサイト
- L^AT_EX を使ってる人に直接聞く（俺が暇な時であれば相談に乗ります）

また、次のようなことを調べたいときは以下のサイトがおすすめです

- L^AT_EX の書き方のマナーを調べたいときは『LaTeX における正しい論文の書き方』
- 数式の表示にどんな種類があるのかは『LaTeX』数式環境まとめ【amsmath』

小節・段落

箇条書き

3 数式の書き方

4 図表の書き方

5 応用

5.1 文書が長くなりすぎて実行に時間がかかりすぎる問題

余裕で2桁ページに到達するような実験レポートを書いていると、pdf化に数十秒かかるようになってきます（PCのスペックによる？）これでは、今書いている内容が正しく表示されるか確認するだけで時間が過ぎ去っていくので、対策必須です。

対策1 編集する部分だけ取り出して、エラーを吐かなければメイン文書に統合

対策2 分割して書けるパッケージ導入

対策1の方でも問題ないけれど、分割して書くシステムを作っておけば複数人での論文作成時にも応用できて便利です。